B-64 試作風合計に就いて

和洋女大文家政
早稲田大教育

村田八十代
伊藤秀三郎

滝沢初美 ○カ丸テル子

目的

織物類の外観と手触りの総合感覚たる風合も、簡単に数値化せんとするにある。

方法

前項のために触、圧覚と覚えさせる事が可能な風合計を試作し、それを用い聊か計測を行った。

被験者は、和洋女大文家政の被服学科及び生活学科並びに短期大家政科被服コースの学生、総数300名以上である。

風合を見る試料は木綿で、薄地としてハイモ、中間のものとしてブロード及び厚地として綿ネルを選んだ。

条件としては無処置の場合と処置の場合とであつて、後者は濡らすとか禁するとかの処置である。

結果

以上の風合に關する計測から、数値的に次のニヒがあると、思考された。

- ① 個人差
- ② 布の性質による相違
- ③ 布元の処置による相違